平成三十一年度　滋賀県立彦根東高等学校特色選抜　小論文

注意
＊答えは、縦書きとし、解答用紙の決められた欄に書き入れなさい。
＊字数には句読点も含みます。
＊漢字は楷書、仮名遣いは現代仮名遣いで書きなさい。
＊２の答えは、原稿用紙の正しい使い方にしたがって書きなさい。

受検番号

次の文章は、将棋棋士、羽生善治さんが、直感を磨くということについて述べたものである。よく読んで、後の１、２の問いに答えなさい。

直感を磨くためには、無駄と思われることが大いに役立つことがある。

たぶん無駄だろう、どうせ役に立たないけれど、というくらいの気楽な気持ちでやっていたほうが、たとえ直接的ではなくてもヒントになったり、何かのきっかけになったりする。

逆に、これがきっと役に立つだろう、使えるだろうなどと意気込んで期待しているときには、意図した効果はあらわれないものだ。

自分ではぴったり合っていると思っていても、実は刻々と変化する状況の中で、徐々にズレていってしまう場合がある。現在の状況と、自分の状況認識の間に、少しでもズレがあると、そこから導かれる決断にもズレが生じる可能性が高くなってしまう。

ロジカルに考えて判断を積み上げる力も必要だが、①無駄と思えることを取り入れるのも大事だと思う。

あえて、無駄をする――イメージとしては、ジグソーパズルを解くときに、適当にピースを散らしながら、ばらばらに、わざと間違えて置いていくような作業だ。

普通は、一ピースでも「ぴったり合う」ところを探すだろう。しかし、それだけでは手詰まりになるケースもある。

適当に置いていくと、当然のことながらたいてい間違っていて、これはこのブロックではないとか、このブロックはこれではできあがらないとか、明確な間違いが見えてくる。

その明確な間違いがある一定量までいくと、ふっと全体の理解につながる。そこから全体を把握できるようになる。

無駄だと思っていても、ある程度まで続けてみる。そこに細いながらも道が続いているかもしれないからだ。もちろん、そのまま無駄で終わることが大半だが。

また、直近では役に立たなかったけれども、時間を置いて、たとえば半年後に役に立つこともある。そのときには考えても無駄だったと思われたことが、何かの拍子で役に立つこともある。

即効性を考えれば一見無駄と思われるようなことの蓄積も、実際してみなければ分からない。そこには、結局徒労で終わるリスク、さらに悪い事態を招くかもしれないリスクもある。

しかし、②無駄を排除して高効率を追い求めたとしても、リスクを誘発する可能性がゼロにはならない。むしろ、即効性を求めた手法が知らず知らずのうちに大きなリスクを増幅させているケースもある。無駄と思えるランダムな試みを取り入れることによって、〝過ぎたるは猶及ばざるが如し〟を回避できるのではないかと考えている。

（羽生　善治『直感力』による。）

（注）
ロジカル ＝ 論理的
ピース ＝ ジグソーパズルの部品となる小片
手詰まり ＝ 手段が無くなり、先に進まないこと
ブロック ＝ まとまり
直近 ＝ 最も近いこと
即効性 ＝ 効果がすぐに現れるような性質
徒労 ＝ 努力が無駄になること
誘発 ＝ あることが原因となり、別のことを引き起こすこと
増幅 ＝ 強め大きくすること
〝過ぎたるは猶及ばざるが如し〟 ＝ 「度を過ぎてしまったものは、不十分なものと同じで、どちらも適当ではない」の意

１　傍線部①のように筆者が思う理由を、傍線部①より後の内容によって百字程度で説明しなさい。

２　傍線部②について、なぜそのように言えるのか。本文の内容をふまえたうえで、あなたの体験または具体例をまじえて、百四十字以上、百八十字以内で述べなさい。ただし、本文中の例は使わないこと。